

牧羊幼稚園 落成式



明石の丘の上に牧羊幼稚園が設立されて、66年がたちます。英国人キャサリン・マリー・シエパード先生が私財を投じ、沢山の方のご協力により建てられた園舎も、長い歴史と共に老朽化し、耐震の整った新園舎が検討されました。2015年の春に、当時の理事長であった中村主教の「今しかないでしょう」の一言に後押しされ、念願であった新園舎建築に取り組みことになりました。設計・建築会

社が決まると2期にわたる工事が始まりました。仮設園舎での保育や3度の引っ越しなど、大変なこともありましたが、新しい園舎が出来上がっていくのを、職員、子どもたち、保護者、明石聖マリア・マグダレン教会の皆様とともに、楽しみに見ていました。2017年5月に第1期工事が終わり、12月には第2期工事も終了しました。新しい園舎で保育が始まりましたが、行事の関係もあり、竣工式は3月に執り行いました。3月27日(火)午前中に在園児と保護者による『お祝いの会』、午後には外部の方をお招きして『竣工式』を行いました。小林主教にご臨席いただき、礼拝後に竣工式のセレモニーが行われました。明石市並びに建築関係者・私立幼稚園関係者・キリスト教保育連盟関係者・近隣関係園・教会・当園関係者、卒園生など沢山の方々にご参列頂き、一緒にお祝いして頂きましたことを、大変うれしく思いました。また園舎建築にご協力とお祈りを頂きましたことを、この場

を借りてお礼申し上げます。牧羊幼稚園は、園舎建築と共に『認定こども園』として新しい一歩を踏み出しております。どうぞこれからも牧羊幼稚園を覚えていただければ幸いです。
(牧羊幼稚園園長 末永 忍)



キリストとコーヒーを

かつて子供の私にとって唯一の楽しみは礼拝後のお茶ぐらいで、教会という退屈な場所ではかありませんでした。また、礼拝中は宗教的重々しい気分になり、終わって外に出るとようやく普通の人間に戻れるような感覚があったのを覚えています。最近の英国国教会では、こうした宗教色を和らげようとしています。キリスト教の信仰を現代社会へとつなげる

ために、2005年から超教派によって、フレッシュ・エクスプレッションズという試みが始まりました。

カフェ・チャーチもその一つで、現時点では最も成果のある活動と言えます。新しい伝道の形を求めている「人々に寄添った教会を興こせ(コリント信徒への手紙I 9章19(23節)」という聖パウロの言葉に拠っています。要約すれば、彼は信仰がより日常に沿って導かれるよう望んだのです。つまり、カフェ・チャーチを始めとする活動は、本来の伝道を求めるべき姿と言えるかもしれません。

MtS神戸でのカフェ・チャーチはケルト系キリスト教に倣っています。例えば、司祭の話を一方的に聞くのではなく語りかけの形に変え、讃美歌も現代風にし、代祷も互いにやり取りをするという進め方をしています。また、楽な椅子を用い輪になって座ることで上下関係を無くし、礼拝の途中でも自由にお茶

やお菓子を楽しめるようにしています。多くの信者が、カフェ・チャーチでは信者間での距離も近く話しやすくなり、伝統的な礼拝よりもくつろいで過ごせるようです。こうした変化をこそ今の教会は目指すべきであり、伝統的な礼拝を敬遠する人々をもう一度呼び戻す一助にするべきではないかと思っています。

カフェ・チャーチのキリストとコーヒーに象徴される神聖と世俗の調和、特権的でも禁欲的でもなく広く解放された空間で、神と共に在ることを人生の一部として楽しめるよう、ぜひ試されてみてはいかがでしょうか。

(司祭 ポース・トルハースト 神戸マリナーズセンター)

